

はじめに

2008年度は、9月の事故米穀の不正規流通の発覚、2009年2月の愛知県豊橋市における高病原性鳥インフルエンザの発生などリスク管理・危機管理の重要性を改めて強く認識させられた年でした。

また、2008年度の前半は好調と思われた東海地域の景気も、世界同時不況の影響を受け、自動車産業をはじめとする製造業を中心とした非正規雇用労働者の解雇など後半は一転厳しい状況となり、農林水産業が雇用の場として脚光をあびるような状況となっています。

本報告書は、2008年度の東海地域の食料・農業・農村をめぐる情勢をとりまとめたものです。

冒頭の「トピックス」では、事故米穀の不正規流通問題、愛知県における高病原性鳥インフルエンザの発生、農山漁村雇用をめぐる動きなど2008年度の東海地域における特徴的な動きを採り上げています。

「特別課題編」では、食料自給率向上、食品・農産物の安全・安心に関する消費者の意識の高まりにより、地産地消に関心が高まっており、従来の農産物直売所、学校給食などでの販売、利用に加え、農商工連携による商品開発、社員食堂での地産地消メニュー導入などの新たな取組が広がっていることを受け、「地産地消」をテーマに東海地域の現状と課題、これからの推進方策について記述しました。また、巻頭には東海地域の農産物直売所のトップランナーである「げんきの郷」の社長であり、2008年に「地産地消の仕事人」にも選定された鈴木氏、同社の統括部長で野菜ソムリエシニアマイスターである高木氏と小職との対談を掲載しています。

「一般動向編」では、2008年度の東海地域の食料・農業・農村の動向や東海農政局管内の現場の取組等について、統計データや事例を用いてわかりやすい記述に心がけました。

本報告書が東海地域をはじめ広く多くの方々に活用され、東海地域の食料・農業・農村について関心を持ち、理解を深めていただく一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本報告書の作成に当たり、資料の収集、調査等で多大なご協力をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

2009年6月

東海農政局長 竹森 三治

